

国際文化学科

科目名	比較文化論	配当年次 単位数	1年前期/講義 2単位(必修)	担当者	川上 新二		
授業概要	文化の一つである宗教をとりあげ、比較宗教学の視点からさまざまな宗教について学ぶ。私たちの周囲にある宗教を学ぶことは私たち自身や私たちの文化を見つめる力を養うことになり、また、世界各地で営まれる宗教を学ぶことは異文化を理解し、世界各地で生じている諸問題を見つめるための視野を養うことになる。この授業の到達目標は宗教の基礎知識を習得することであり、それによって自分自身や自分の文化を見つめる力、世界の文化を見る際の視点、現代社会での諸問題に対処するための視野を獲得することが期待される。						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">                     ① 文化としての宗教                      ② 『旧約聖書』の人間観、世界観                      ③ ユダヤ教(1)                      ④ ユダヤ教(2)                      ⑤ キリスト教(1)『新約聖書』                      ⑥ キリスト教(2)                      ⑦ イスラーム、『コーラン』                      ⑧ ヒンドゥー教(1)                 </td> <td style="vertical-align: top;">                     ⑨ ヒンドゥー教(2)                      ⑩ 仏教(1)                      ⑪ 仏教(2)                      ⑫ 儒教                      ⑬ 道教                      ⑭ 神道                      ⑮ 宗教の整理、分類                      ⑯ 試験(記述式、持ち込み不可)                 </td> </tr> </table>					① 文化としての宗教 ② 『旧約聖書』の人間観、世界観 ③ ユダヤ教(1) ④ ユダヤ教(2) ⑤ キリスト教(1)『新約聖書』 ⑥ キリスト教(2) ⑦ イスラーム、『コーラン』 ⑧ ヒンドゥー教(1)	⑨ ヒンドゥー教(2) ⑩ 仏教(1) ⑪ 仏教(2) ⑫ 儒教 ⑬ 道教 ⑭ 神道 ⑮ 宗教の整理、分類 ⑯ 試験(記述式、持ち込み不可)
① 文化としての宗教 ② 『旧約聖書』の人間観、世界観 ③ ユダヤ教(1) ④ ユダヤ教(2) ⑤ キリスト教(1)『新約聖書』 ⑥ キリスト教(2) ⑦ イスラーム、『コーラン』 ⑧ ヒンドゥー教(1)	⑨ ヒンドゥー教(2) ⑩ 仏教(1) ⑪ 仏教(2) ⑫ 儒教 ⑬ 道教 ⑭ 神道 ⑮ 宗教の整理、分類 ⑯ 試験(記述式、持ち込み不可)						
評価方法	レポート50%、定期試験50%(レポートと定期試験を通じて、宗教の基礎知識を習得しているかを評価する)						
履修条件	レポートと定期試験では授業で講義した内容を習得しているかを問うので、毎授業後、ノート整理など復習に努めること。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	櫻井義秀・平藤喜久子編『よくわかる宗教学』ミネルヴァ書房、脇本平也『宗教学入門』講談社学術文庫						

国際文化学科

科目名	文化人類学	配当年次 単位数	1年後期/講義 2単位(選択)	担当者	川上 新二		
授業概要	世界のさまざまな民族や社会で営まれる文化(生活様式)の中から婚姻、家族、親族、信仰、言語をとりあげ、文化人類学による文化の見方を学ぶ。この授業の到達目標は、世界のさまざまな民族や社会を理解するために文化人類学が提出してきた見方、考え方を理解し、習得することであり、それによって異文化への接近方法を獲得し、異文化と比較しながら自分自身の文化を見つめる力や、現代社会での諸問題に対処するための視野を養うことが期待される。						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">                     ① 文化人類学について                      ② 文化について                      ③ 婚姻(1)                      ④ 婚姻(2)                      ⑤ 家族(1)                      ⑥ 家族(2)                      ⑦ 「父」と「母」                      ⑧ 出自(1)                 </td> <td style="vertical-align: top;">                     ⑨ 出自(2)                      ⑩ アニミズム                      ⑪ 呪術                      ⑫ 妖術と邪術                      ⑬ 精霊憑依と脱魂                      ⑭ 言語(1)                      ⑮ 言語(2)                      ⑯ 試験(記述式、持ち込み不可)                 </td> </tr> </table>					① 文化人類学について ② 文化について ③ 婚姻(1) ④ 婚姻(2) ⑤ 家族(1) ⑥ 家族(2) ⑦ 「父」と「母」 ⑧ 出自(1)	⑨ 出自(2) ⑩ アニミズム ⑪ 呪術 ⑫ 妖術と邪術 ⑬ 精霊憑依と脱魂 ⑭ 言語(1) ⑮ 言語(2) ⑯ 試験(記述式、持ち込み不可)
① 文化人類学について ② 文化について ③ 婚姻(1) ④ 婚姻(2) ⑤ 家族(1) ⑥ 家族(2) ⑦ 「父」と「母」 ⑧ 出自(1)	⑨ 出自(2) ⑩ アニミズム ⑪ 呪術 ⑫ 妖術と邪術 ⑬ 精霊憑依と脱魂 ⑭ 言語(1) ⑮ 言語(2) ⑯ 試験(記述式、持ち込み不可)						
評価方法	レポート50%、定期試験50%(レポートと定期試験を通じて文化人類学による見方、考え方を習得しているかを評価する)						
履修条件	レポートと定期試験では授業で講義した内容を習得しているかを問うので、毎授業後、ノート整理など復習に努めること。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	祖父江孝男『文化人類学入門』中公新書、村武精一・佐々木宏幹編『文化人類学』有斐閣Sシリーズ						

国際文化学科

科目名	日本文化論	配当年次 単位数	1年前期/講義 2単位(必修)	担当者	村中 菜摘
授業概要	本講義は、日本人としての自分をどれほど理解しているかという問いかけから出発し、日本人特有のものの見方や考え方を客観的にとらえ直した上で、日本の精神文化の魅力に気付くことを目的としている。主に文学的・芸術的な立場から日本人の思考や行動の基盤を探ることで、自己の内面への認識を深め、日本の文化の根底に流れる日本人の精神性の魅力に気付いてもらいたい。本講義を通じ、日本人としての自分に誇りを持ってもらえたら幸いである。				
授業計画	① はじめに、日本文化の魅力について ② 日本文化の基礎知識 ③ 『源氏物語』にみる「もののあはれ」 ④ 「もののあはれ」の運命観における救いと課題 ⑤ 日本人の「もの」に対する意識—Jホラーから ⑥ 「無常」とは—「はかなさ」の感情から ⑦ 無常観に対する姿勢—『方丈記』と『徒然草』 ⑧ 「色即是空」と「空即是色」		⑨ 「空即是色」と茶道の心 ⑩ 日本の「おもてなし」とは ⑪ 「義理」と「人情」の関係を探る ⑫ 日本人の思いやりについて ⑬ 「粋」の三構成要素(1) ⑭ 「粋」の三構成要素(2) ⑮ 「粋」と「野暮」、身の周りの粋 ⑯ 試験		
評価方法	出席状況・授業態度50%、定期試験50%				
履修条件	特になし				
教科書	なし。担当教員がプリントを準備する				
参考書	必要に応じて別途プリントを配布する				

国際文化学科

科目名	民俗学	配当年次 単位数	2年前期/講義 2単位(選択)	担当者	川上 新二
授業概要	民俗学が対象とする諸分野の中から民俗宗教をとりあげる。民俗宗教とは民衆の間で営まれる宗教や信仰を指すが、その中でも精霊憑依と、それを基盤に展開するシャーマニズムに焦点を当て、比較民俗学の視点も取り入れながら日本本土、奄美・沖縄、韓国などで見られる事例について学ぶ。この授業の到達目標は精霊憑依やシャーマニズムの基礎知識を習得することであり、それを通じて自分自身の文化や異文化を理解するための視点を獲得することが期待される。				
授業計画	① シャーマン、シャーマニズムとは ② 精霊憑依とは ③ 日本・東北地方のシャーマン (1) ④ 日本・東北地方のシャーマン (2) ⑤ 日本・東北地方のシャーマニズムと仏教 ⑥ 奄美・沖縄のシャーマン (1) ⑦ 奄美・沖縄のシャーマン (2) ⑧ 沖縄・奄美のシャーマニズムとキリスト教		⑨ 奄美・沖縄のシャーマンと祭司(プリースト) ⑩ 日本各地のシャーマン ⑪ 韓国のシャーマン (1) ⑫ 韓国のシャーマン (2) ⑬ 韓国のシャーマニズムと儒教 ⑭ アジア各地のシャーマン (1) ⑮ アジア各地のシャーマン (2) ⑯ 試験(記述式、持ち込み不可)		
評価方法	レポート50%、定期試験50%(レポートと定期試験を通じて、精霊憑依とシャーマニズムの基礎知識の習得程度を評価)				
履修条件	レポートと定期試験では授業で講義した内容を習得しているかを問うので、毎授業後、ノート整理など復習に努めること。				
教科書	プリントを配布する				
参考書	池上良正『民俗宗教と救い』淡交社				

## 国際文化学科

科目名	地域文化論	配当年次 単位数	2年後期/講義 2単位(選択)	担当者	荒木 隆人
授業概要	現代国際社会には、多様な国家が存在し、その中には様々な民族が独自の文化・言語をもって生活している。それゆえ、自分と異なる文化をもった他者の文化を拒絶するのではなく、相互に対等な文化として承認しあう多文化主義という考え方が注目されてきた。多文化主義の理念と政策はカナダを始めとし、ヨーロッパ諸国へも拡大したが、今日、多様な文化を背景にもつ移民の急激な増加が受け入れ国家の市民のアイデンティティを危うくしているとして多文化主義への批判が提起されている。そのような中、新たに多文化共存の理念として注目されつつあるのが、間文化主義である。本講義の目的は、多文化主義及び間文化主義それぞれの理念とその背景を検討し、現代社会の多文化共存の知恵を探ることである。				
授業計画	① インTRODクシヨン ② 現代グローバル社会と国民国家、多文化共存 ③ 多文化主義とは ④ 多文化主義(カナダの事例1) ⑤ 多文化主義(カナダの事例2) ⑥ 多文化主義(カナダの事例3) ⑦ 多文化主義(オーストラリアの事例1) ⑧ 多文化主義(オーストラリアの事例2)	⑨ 多文化主義(ヨーロッパ諸国の事例1) ⑩ 多文化主義(ヨーロッパ諸国の事例2) ⑪ 多文化主義への挑戦: 間文化主義とは ⑫ 間文化主義(カナダ・ケベック州の事例1) ⑬ 間文化主義(カナダ・ケベック州の事例2) ⑭ 間文化主義の可能性 ⑮ まとめ ⑯ 定期試験			
評価方法	出席状況・授業態度20%、定期試験80%				
履修条件	なし				
教科書	特に使用しない				
参考書	『間文化主義—多文化共生の新しい可能性』(彩流社)、『多文化主義・多言語主義の現在』(人文書院)				

## 国際文化学科

科目名	アジア文化論	配当年次 単位数	1年前期/講義 2単位(必修)	担当者	王 武雲
授業概要	本講義は、アジアにおける中国、日本、シンガポール、ベトナム、インドなどいくつかの国と地域を中心に、文化の特徴を概説する。まず、それぞれの国における家族を取り上げ、経済成長や社会発展に伴う家族変動の中で、家族形態や家族規範がどのように変化してきたか、また変化しつつあるかを明らかにする。次に中国における人口移動現状と日本における外国人の文化受容を検討する。異なる国の家族、社会及び文化を比較することによって、アジアの共通性や文化の特殊性を導き出すことを目的にする。最後の3回授業でいくつかのグループに分けて、アジアの国々について調べて発表してもらう。				
授業計画	① アジアの国々 ② データから見た中国における家族形態の変化 ③ 日本の家族形態の変化 ④ フィリピンの家族形態の変化 ⑤ ベトナムの社会変化と食文化 ⑥ インド文化の多様性 ⑦ アジア人の移動 ⑧ 中国の人口増加と日本の人口減少	⑨ 日本にいる外国人 ⑩ 日本における国際結婚 ⑪ 日本にいる留学生 ⑫ 中国にいる外国人 ⑬ グループ発表 ⑭ グループ発表 ⑮ グループ発表 ⑯ 定期試験			
評価方法	出席状況20%、レポート40%、定期試験40%による総合評価				
履修条件	なし				
教科書	特にテキストは使わない。授業中に資料などをプリントで配布する				
参考書	授業の中で随時紹介する				

## 国際文化学科

科目名	<b>中国文化論</b>	配当年次 単位数	1年前期／講義 1単位（選択）	担当者	<b>王 武雲</b>
授業概要	<p>本講義は、次に示すとおり、中国の少数民族、食文化、茶文化、大衆文化などの側面から中国を観察し、中国の文化に触れてもらう。中国には漢民族以外に55の少数民族があり、それぞれの民族は独自の文化や習慣をもっている。中国における少数民族の社会や文化を考察しながら、中国社会の多様性を検討していく。理解を深めるため、ビデオなどの視覚教材を活用し、講義を進めて行く予定である。毎回感想文の提出を義務づける。感想文の内容を自主学習課題の成果と見なし、成績評価に反映させる。</p>				
授業計画	① 中国で、どんな国？ ② 中国の民族（漢民族と少数民族） ③ 少数民族の独特な文化 ④ 中国の食文化（伝統の「八大菜系」） ⑤ 中国の茶文化 ⑥ 中国の大衆文化（京劇とチャイナポップス） ⑦ 中国の祝祭日（グループ発表） ⑧ 期末試験	（本講義は隔週の授業です）			
評価方法	出席状況20%、感想文40%、期末試験40%による総合評価				
履修条件	なし				
教科書	特にテキストは使わない。授業中に資料などをプリントで配布する				
参考書	授業の中で随時紹介する				

## 国際文化学科

科目名	<b>韓国文化論</b>	配当年次 単位数	1年前期／講義 1単位（選択）	担当者	<b>川上 新二</b>
授業概要	<p>韓国の地理、歴史、文学について、基礎知識を習得することを目標とする。それを通じて、韓国社会の特色を理解するための視点を獲得することが期待される。</p>				
授業計画	① 地理 ② 歴史 (1) 古代 ③ 歴史 (2) 中世 ④ 歴史 (3) 近世 ⑤ 歴史 (4) 近・現代 ⑥ 文学 (1) 古代・中世 ⑦ 文学 (2) 近世 ⑧ 文学 (3) 近・現代	⑨ 定期試験（記述式、持ち込み不可）			
評価方法	レポート50%、定期試験50%（レポートと定期試験で、韓国の地理、歴史、文学の基礎知識を習得しているかを評価する）				
履修条件	レポートと定期試験では授業で講義した内容を習得しているかを問うので、毎授業後、ノート整理など復習に努めること。				
教科書	プリントを配布する。				
参考書	『朝鮮を知る事典』平凡社、伊藤亜人編『もっと知りたい韓国（第2版）』弘文堂				

## 国際文化学科

科目名	英米文化論	配当年次 単位数	1年前期/講義 2単位(必修)	担当者	中川 一雄
授業概要	<p>実は、イギリスもアメリカもその文化は一樣ではなく、さまざまなのです。地域によって、時代によって、多種多様な文化形態があります。また文化の定義自体が何より困難な批評的営為なのです。この講義ではこれらの点を前提としつつ、現代の日本も深くその影響下にある近/現代の英米社会に端を発する文化的思潮を考えてみます。それは(ポスト)モダニズムと呼ばれる文化的思潮です。モダニストと呼ばれる詩人や作家の作品(文化的表現)を通して「英米」の社会や文化の一端でも理解を深めていきましょう。あわせて、文化的表現(詩や小説)の「読み方」も学んでいきましょう。</p>				
授業計画	① 概説：言語、文化、イギリス、アメリカについて ② 現代の世界観とモダニズム ③ エリオットの世界観とそのイメージ(1) ④ エリオットの世界観とそのイメージ(2) ⑤ エリオットの世界観とそのイメージ(3) ⑥ ヘミングウェイの「世界」(1) ⑦ ヘミングウェイの「世界」(2) ⑧ ヘミングウェイの「世界」(3)	⑨ ヘミングウェイの「世界」(4) ⑩ フィッツジェラルドの都市と人生の「夢」(1) ⑪ フィッツジェラルドの都市と人生の「夢」(2) ⑫ フィッツジェラルドの都市と人生の「夢」(3) ⑬ フィッツジェラルドの都市と人生の「夢」(4) ⑭ フォークナーの「南部」と貧しき人々(1) ⑮ フォークナーの「南部」と貧しき人々(2) ⑯ まとめと試験			
評価方法	授業での学習40%、期末試験60%				
履修条件	特になし				
教科書	プリント配布				
参考書	適宜指示します				

## 国際文化学科

科目名	ヨーロッパ文化論	配当年次 単位数	2年前期/講義 2単位(選択)	担当者	小池 直人
授業概要	<p>近代日本はヨーロッパから積極的に学んで国家、社会をつくりあげてきました。しかし、ヨーロッパは様々な国々からなり多様な文化があります。この授業では北方系の文化および社会の歴史、とくにドイツや北欧諸国の歴史に焦点を当て、他のヨーロッパ諸地域と比較しながらヒューマンイズム文化を考察します。題材となる文化は広い意味で理解し、文芸作品、社会や政治文化、宗教や精神生活などにもふれ、ヨーロッパ文化の本質理解に迫ります。</p>				
授業計画	① はじめに——オリエンテーション ② ヨーロッパと日本 ③ 風土と歴史 ④ 古典時代とキリスト教 ⑤ 中世と宗教改革の遺産 ⑥ ルネサンスと近代文化 ⑦ ゲーテ、シラーに見る市民文化 ⑧ 文芸の公共性	⑨ グルントヴィの知の改革 ⑩ アンデルセンと社会問題 ⑪ マルクスと労働者文化 ⑫ ヨーロッパ文化の行きづまり ⑬ イプセンと女性の自立 ⑭ 社会福祉をめぐる意見対立 ⑮ 新福祉国家と知識社会の誕生 ⑯ 試験(記述式、資料持込み可)			
評価方法	授業参画20%、数度のレポート20%、定期試験60%				
履修条件	特になし				
教科書	教科書は指定しないが、プリント、参考資料等を配布する。				
参考書	小池直人『デンマークを探る<改訂版>』(風媒社)				

## 国際文化学科（開放科目）

科目名	文化交流論	配当年次 単位数	2年後期／講義 2単位（選択）	担当者	川上 新二
授業概要	文化交流を文化の接触ととらえ、仏教に関する基礎を学ぶとともに、インドで発生した仏教がインド在来の文化からどのような影響を受けたか、また、中国に伝来した後どのように展開したかについても学ぶ。この授業の到達目標は仏教の基本的な知識を習得するとともに、仏教がインドや中国の在来文化と接触してどのように展開したかを理解することである。日本の文化にも大きな影響を与えた仏教を学ぶことを通じて、自分自身の文化を見つめる力を養うとともに、文化の接触を考察する際の視点を獲得することが期待される。				
授業計画	① 仏教とは ② バラモン教 ③ 釈迦の生涯 ④ 釈迦の悟りの内容 ⑤ 釈迦の説いた教え ⑥ 苦しみの由来 ⑦ 修行について ⑧ 仏教とバラモン教	⑨ 多くの仏陀、空 ⑩ 唯識、如来蔵 ⑪ 中国での禅の形成 ⑫ 中国での禅の展開 ⑬ 天台教学、華嚴教学 ⑭ 浄土信仰 ⑮ 仏教と儒教 ⑯ 試験（記述式、持ち込み不可）			
評価方法	レポート50%、定期試験50%（レポートと定期試験を通じて、仏教の基本的な知識を習得しているかを評価する）				
履修条件	レポートと定期試験では授業で講義した内容を習得しているかを問うので、毎授業後、ノート整理など復習に努めること。				
教科書	なし				
参考書	高崎直道『仏教入門』東京大学出版、奈良康明『仏教史Ⅰ』山川出版社				

## 国際文化学科（開放科目）

科目名	日本文学論	配当年次 単位数	1年後期／講義 2単位（選択）	担当者	村中 菜摘
授業概要	本講義は、各時代の代表的な文学作品を厳選して取り上げつつ味わうことで、日本文学の魅力を再発見し、生きていく上での視野を広げることを目的とする。登場人物の内面に共感したり、作品の狙いについて考えたりすることで、今後の生き方やものの考え方についてのヒントを得てほしい。本講義を通じて、日本文学作品を手にとってくれる若者が増えると嬉しい。				
授業計画	① はじめに、日本最古の和歌集『万葉集』 ② 『万葉集』から、和歌とは何かを考える ③ 物語文学の流れ(1)作り物語、歌物語 ④ 物語文学の流れ(2)日記文学からの影響 ⑤ 『源氏物語』概説、第一・二部の登場人物紹介 ⑥ 第三部のあらすじ、および登場人物紹介 ⑦ 『源氏物語』の世界を味わう ⑧ 『新古今和歌集』の意義、新しい美の追求	⑨ 『徒然草』の柔軟性、自他への視線 ⑩ 井原西鶴一俳諧から浮世草子に至る笑いの追求 ⑪ 近松門左衛門一人形浄瑠璃と歌舞伎の脚本家 ⑫ 夏目漱石(1)―初期作品から前期三部作へ ⑬ 夏目漱石(2)―後期三部作に至る近代人の苦悩 ⑭ 谷崎潤一郎(1)女性賛美から悪魔主義へ ⑮ 谷崎潤一郎(2)耽美主義と日本伝統美の融合 ⑯ 試験			
評価方法	出席状況・授業態度50%、定期試験50%				
履修条件	特になし				
教科書	なし。担当教員がプリントを準備する				
参考書	必要に応じて別途資料を配布する				

国際文化学科

科目名	比較文学論	配当年次 単位数	2年前期／講義 2単位(選択)	担当者	村中 菜摘
授業概要	本講義では、日本文学作品の特質を、これに影響を与えた中国文学との「比較」から読み解いてゆく。扱う日本の文学作品は、中国故事の翻訳物語集『唐物語』（12世紀後半成立）に収められた、玄宗と楊貴妃の物語である。『唐物語』と、典拠である中国古典文学作品「長恨歌」「長恨歌伝」「楊太真外伝」に描写されたそれぞれの楊貴妃像を比較・分析し、描かれ方の理由および背景を探る。物語をゆっくりと味わいつつ、理解を深めるために、楊貴妃を扱った映像として現代の中国ドラマも取り入れつつ進める。				
授業計画	① はじめに、『唐物語』の性質、楊貴妃について ② 楊氏の娘、玄宗の後宮へ召される ③ 楊貴妃の魅力についての比較(1) ④ 楊貴妃の魅力についての比較(2) ⑤ 玄宗の寵愛と世間からの羨望 ⑥ 楊貴妃の政治性についての比較(1) ⑦ 楊貴妃の政治性についての比較(2) ⑧ 楊貴妃の政治性についての比較(3)	⑨ 楊貴妃の奔放さについての比較(1) ⑩ 楊貴妃の奔放さについての比較(2) ⑪ 玄宗と楊貴妃、永遠の愛を誓う ⑫ 安祿山の乱起こる ⑬ 楊貴妃、殺害される ⑭ 『長恨歌』鑑賞—比較文学的視点から(1) ⑮ 『長恨歌』鑑賞—比較文学的視点から(2) ⑯ 試験			
評価方法	出席状況・授業態度50%、定期試験50%				
履修条件	特になし				
教科書	なし。担当教員がプリントを準備する				
参考書	必要に応じて別途資料を配布する				

国際文化学科

科目名	国際関係論	配当年次 単位数	1年後期／講義 2単位(必修)	担当者	荒木 隆人
授業概要	本講義では、主として国際関係を考察する上での基本的な理論的視座と、国際関係の歴史の検討を行う。国際社会の基本的な枠組み（主権国家体制）が成立したウェストファリア体制から、二つの世界大戦、冷戦、及び今日の世界情勢までの検討を行う。				
授業計画	① イントロダクション ② 国際関係の見方(1) (リアリズム) ③ 国際関係の見方(2) (リベラリズム) ④ 国際関係の見方(3) (構成主義) ⑤ ウェストファリア体制と主権国家の誕生 ⑥ ナショナリズムと帝国主義 ⑦ 第一次世界大戦 ⑧ 国際連盟の成立	⑨ 第二次世界大戦 ⑩ 国際連合の成立 ⑪ 冷戦 ⑫ 地域主義の挑戦(1) (EU) ⑬ 地域主義の挑戦(2) (ASEAN) ⑭ 冷戦後の国際問題 (テロと地域紛争) ⑮ まとめ ⑯ 定期試験			
評価方法	出席状況・授業態度20%、定期試験80%				
履修条件	なし。				
教科書	『国際政治学をつかむ』有斐閣				
参考書	『国際関係論』弘文堂				

**国際文化学科**

<b>科目名</b>	<b>国際協力論</b>	<b>配当年次</b>	2年前期／講義	<b>担当者</b>	<b>荒木 隆人</b>
		<b>単位数</b>	2単位 (選択)		
<b>授業概要</b>	<p>現代国際社会では、地球規模で取り組むべき課題が数多くある。中でも、南北問題に代表される途上国の貧困問題、途上国における基本的人権の抑圧、地球温暖化に代表される地球環境問題、内戦及び地域紛争の防止や紛争後の復興支援である。それゆえ、本講義では、開発援助、人権保護、地球環境問題、平和構築の4つの分野から国際協力の在り方を検討する。</p>				
<b>授業計画</b>	<p>① イントロダクション ② 貧困問題と開発援助 (南北問題) ③ 貧困問題と開発援助 (政府開発援助) ④ 貧困問題と開発援助 (日本のODA) ⑤ 貧困問題と開発援助 (ODAの展望) ⑥ 人権保護の国際協力 (戦後の人権保護) ⑦ 人権保護の国際協力 (冷戦期における人権保護) ⑧ 人権保護の国際協力 (冷戦後における人権保護)</p>		<p>⑨ 地球環境問題と国際協力 (地球環境問題とは) ⑩ 地球環境問題と国際協力 (地球環境レジーム) ⑪ 地球環境問題と国際協力 (環境ODA) ⑫ 平和構築の国際協力 (平和維持) ⑬ 平和構築の国際協力 (平和構築) ⑭ 平和構築の国際協力 (平和構築と日本の協力) ⑮ まとめ ⑯ 定期試験</p>		
<b>評価方法</b>	出席状況・授業態度20%、定期試験80%				
<b>履修条件</b>	なし。				
<b>教科書</b>	『国際協力—その新しい潮流 第3版』				
<b>参考書</b>	『テキスト 国際開発論』ミネルヴァ書房				

**国際文化学科**

<b>科目名</b>	<b>異文化コミュニケーション</b>	<b>配当年次</b>	2年後期／講義	<b>担当者</b>	
		<b>単位数</b>	2単位 (必修)		
<b>授業概要</b>					
<b>授業計画</b>					
<b>評価方法</b>					
<b>履修条件</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					



国際文化学科

科目名	情報社会論	配当年次 単位数	2年後期/講義 2単位(選択)	担当者	木村 充位
授業概要	<p>情報技術の著しい進展に伴い、現代社会の生活形態は大きく変化してきている。それは現代の社会システムにおいて、光と影の部分を作り出した。その光の部分とは何か？影の部分とは何か？を具体例を挙げながら解説する。また、私たちのメディアのつきあい方や人間関係のあり方はどうあるべきかを考える。授業では視聴覚教材や近年の新聞記事を用いて、具体的な事例を見ながら現代の社会システムがどのように情報化されているのか、情報化により現代起きている問題点を整理していく。</p>				
授業計画	<p>① 情報社会について ② 情報化社会の特徴(1)-情報社会の変遷 ③ 情報化社会の特徴(2)-マルチメディア化 ④ 暮らしの中の情報化 ⑤ 情報社会の光 -電子商取引の仕組み ⑥ 情報社会の影 -マルチメディア化の問題 ⑦ 情報化による家庭生活の変化 ⑧ 情報利用の向上 -ブロードバンド</p>		<p>⑨ 情報利用向上の要因(1)-ブロードバンド化の現状 ⑩ 情報利用向上の要因(2)-ブロードバンド化の要因 ⑪ 在宅勤務と遠隔教育 ⑫ テレマーケティングの現状 ⑬ 企業・産業の情報化 -販売管理のコンピュータ化 ⑭ 情報倫理(1)-ネットの有害情報とは ⑮ 情報倫理(2)-有害情報の規制 ⑯ 定期試験</p>		
評価方法	出席状況・授業態度20%、レポート30%、定期試験50%				
履修条件	なし				
教科書	特に指定しない				
参考書	特に指定しない				

国際文化学科

科目名	英会話 I	配当年次 単位数	1年前期/演習 1単位(選択)	担当者	荒木 隆人
授業概要	<p>本授業では、英語コミュニケーション能力を養成する基礎的な段階として、日常の英会話において頻出する表現を身に付けることをねらいとする。その目的のために授業時に適時対話練習を行う。テキストは、海外旅行の際に遭遇する会話の様々な場面を取り扱った『Fly across the borders-本当に使えるトラベル総合英語』を使用する。上記のテキストでの学習を通じて、英語コミュニケーション能力はもちろん、英文法、リーディング、ライティングの力も同時に養成することを目指す。</p>				
授業計画	<p>① ガイダンス ② Prologue (1) ③ Prologue (2) ④ On an Airplane (1) ⑤ On an Airplane (2) ⑥ Landing at Honolulu Airport (1) ⑦ Landing at Honolulu Airport (2) ⑧ Transit at Honolulu Airport (1)</p>		<p>⑨ Transit at Honolulu Airport (2) ⑩ Exchange Money (1) ⑪ Exchange Money (2) ⑫ Transportation (1) ⑬ Transportation (2) ⑭ Hotel (1) ⑮ Hotel (2) ⑯ Staying at Hotel (1)</p>		
評価方法	出席状況(20%) + 授業姿勢(30%) + 定期試験(50%)				
履修条件	なし				
教科書	『Fly Across the Borders-本当に使えるトラベル総合英語』(松柏社)				
参考書					

国際文化学科

科目名	英会話Ⅱ	配当年次 単位数	1年後期/演習 1単位(選択)	担当者	荒木 隆人
授業概要	<p>本授業では、前期に引き続き日常の英会話において頻出する表現を身に付けることをねらいとする。テキストは、『Fly Across the Borders-本当に使えるトラベル総合英語』を使用する。上記のテキストでの学習を通じて、英語コミュニケーション能力はもちろん、英文法、リーディング、ライティングの力も同時に養成することを目指す。</p>				
授業計画	① ガイダンス ② Staying at Hotel (2) ③ Sightseeing (1) ④ Sightseeing (2) ⑤ Directions through Towns (1) ⑥ Directions through Towns (2) ⑦ Food and Drink (1) ⑧ Food and Drink (2)		⑨ At the Restaurant (1) ⑩ At the Restaurant (2) ⑪ Shopping (1) ⑫ Shopping (2) ⑬ Hotel (1) ⑭ Hotel (2) ⑮ Going Back Home (1) ⑯ Going Back Home (2)		
評価方法	出席状況(20%) + 授業姿勢(30%) + 定期試験(50%)				
履修条件	なし				
教科書	『Fly Across the Borders-本当に使えるトラベル総合英語』(松柏社)				
参考書					

国際文化学科

科目名	英会話Ⅲ	配当年次 単位数	2年前期/演習 1単位(選択)	担当者	澤田 真須美
授業概要	<p>英語でのコミュニケーション能力の向上を目的とし、スピーキングとリスニングに焦点をあてる。観光や旅行において必要となるトピックを題材に、英語表現に慣れ、臆することなく会話ができるような表現を身につける。</p>				
授業計画	① はじめに オリエンテーション ② Unit1 Travel ③ Unit2 Jobs and People ④ Unit3 Getting on the Plane ⑤ Unit4 At the Immigration and Customs ⑥ Unit5 At the Airport ⑦ Unit6 Hotel (Accommodations) ⑧ これまでの復習		⑨ Unit7 Restaurant (Breakfast and Fast Food) ⑩ Unit8 Sightseeing ⑪ Unit 9 Shopping ⑫ Unit 10 Transportation ⑬ Unit11 Problems and Complaints ⑭ Traveling in Japan ⑮ まとめ ⑯ 定期試験		
評価方法	試験(確認テストを含む) 50%、授業への参加貢献度20%、実技試験30%				
履修条件					
教科書	観光英検センター 『ベーシック観光英語 ENGLISH FOR TOURISM』 三修社				
参考書	授業内で紹介します。				

国際文化学科

科目名	英会話Ⅳ	配当年次 単位数	2年後期／演習 1単位（選択）	担当者	
授業概要					
授業計画					
評価方法					
履修条件					
教科書					
参考書					

国際文化学科

科目名	海外言語・文化演習	配当年次 単位数	1・2年全期／演習 1単位（選択）	担当者	各担当教員
授業概要	<p>海外言語・文化演習（アメリカ）（韓国）（中国）では、海外の研修校においてネイティブ・スピーカーの現地教員による言語及び文化の授業を受けるとともに、現地学生との交流活動も行う。</p>				
授業計画	<p>出発前オリエンテーションの実施 現地研修校における語学・文化研修 帰国後、課題提出</p>				
評価方法	研修校における研修の成果と本学科が課す課題に基づき、評価する。				
履修条件					
教科書					
参考書					

## 国際文化学科

科目名	<b>初級中国語Ⅰ</b>	配当年次 単位数	1年前期／演習 1単位（選択）	担当者	<b>王 武雲</b>
授業概要	<p>外国語の学習は、単に情報獲得の道具を得るためだけでなく、その言語の背景にある人々の文化の理解も重要である。従って本授業は中国語の発音、基礎的な文法知識を身につけて、中国の文化や習慣に触れながら、簡単な会話ができることを目指す。</p> <p>テキストに沿って、発音練習、文法の説明、練習問題の解答。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習をする。毎回、前回の授業を復習する意味で、授業の最初に小テストを行うから、小テストの準備も授業の一部と考えてください。</p>				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 単母音、複合母音、</li> <li>② 子音、声調</li> <li>③ 変調の規則</li> <li>④ 第1課 お名前は？</li> <li>⑤ 第2課 これは私のパソコンです</li> <li>⑥ 第3課 ここは寒いです</li> <li>⑦ 第4課 7時に起きます</li> <li>⑧ 第5課 学校まで遠いです</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑨ 第6課 何コマがありますか</li> <li>⑩ 第7課 お幾つですか</li> <li>⑪ 第8課 図書館で勉強します</li> <li>⑫ 第9課 どこへ行きましたか</li> <li>⑬ 第10課 パンを食べたいです</li> <li>⑭ 復習</li> <li>⑮ 中国語の発表会</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ul>			
評価方法	出席状況20%、小テスト40%、試験40%による総合評価				
履修条件	なし				
教科書	『楽しく学ぼう やさしい中国語（基礎編）』郁文堂出版社。著者：張慧娟、王武雲、朱藝 2,500+税				
参考書	『日中辞典』（小学館）を薦める				

## 国際文化学科

科目名	<b>初級中国語Ⅱ</b>	配当年次 単位数	1年後期／演習 1単位（選択）	担当者	<b>王 武雲</b>
授業概要	<p>前期で学習した中国語の基礎の上に、中国語の基本的な表現力を向上させる。後期は会話に重きを置いて進めていくが、基本的な文法や文型を理解したうえで、初級レベルの中国語を話すことができるようになることを目指す。</p> <p>前期と同じように、毎回、前回の授業で学習した本文について的小テストをする。少しずつ中国語の会話ができるようになってきて楽しくなるから、前期よりさらに頑張ってもらいたい。</p>				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 前期の復習</li> <li>② 第11課 母より背が高いです</li> <li>③ 第12課 中国へ行ったことがあります</li> <li>④ 第13課 手紙を書いています</li> <li>⑤ 第14課 いつ来たのですか</li> <li>⑥ 第15課 英語ができます</li> <li>⑦ 第16課 15課を学び終わりました</li> <li>⑧ 第17課 母は送ってくれました</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑨ 第18課 中国語を聞いて分かります</li> <li>⑩ 第19課 走るのが速いです</li> <li>⑪ 第20課 彼はフランス語を教えています</li> <li>⑫ 第21課 本を多く読むように</li> <li>⑬ 第22課 中国へ帰ります</li> <li>⑭ 復習</li> <li>⑮ 中国語の発表会</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ul>			
評価方法	出席状況20%、小テスト40%、試験40%による総合評価				
履修条件	なし				
教科書	前期使った教科書の後半を引き続き使用する				
参考書	『中日辞典』（小学館）を薦める				

国際文化学科

科目名	中級中国語Ⅰ	配当年次 単位数	2年前期/演習 1単位(選択)	担当者	尹 勝男
授業概要	<p>中国文化を題材とした各本文を正しくきれいに読めることを目指し、その文章に出てくる基本語彙、熟語、文法の要点など留意しながら読み、書き、暗記することによって、中国語の読解力の向上をはかる。中国の歌を歌ったり、今の中国の姿を映像で見たり、中国語と中国文化に関する理解を深めていく。2回一課のペースで授業を進めていく。</p>				
授業計画	① ガイダンス ② 第1課 首都北京 ③ 第1課 練習 ④ 第2課 民族 気候 ⑤ 第2課 練習 ⑥ 第3課 人口 ⑦ 第3課 練習 ⑧ 第4課 方言	⑨ 第4課 練習 ⑩ 第5課 泰山 ⑪ 第5課 練習 ⑫ 第6課 节假日 ⑬ 第6課 練習 ⑭ 中国の歌 ⑮ 復習 ⑯ 定期試験			
評価方法	出席状況20%、小テスト40%、試験40%による総合評価				
履修条件	なし				
教科書	『楽しく学ぼう やさしい中国語(講読編)』郁文堂出版社。著者：王武雲、張慧娟、朱藝(2,500円+税)				
参考書	授業の中で随時紹介する				

国際文化学科

科目名	中級中国語Ⅱ	配当年次 単位数	2年後期/演習 1単位(選択)	担当者	尹 勝男
授業概要	<p>中国文化を題材とした各本文を正しくきれいに読めることを目指し、その文章に出てくる基本語彙、熟語、文法の要点など留意しながら読み、書き、暗記することによって、中国語の読解力の向上をはかる。中国の歌を歌ったり、今の中国の姿を映像で見たり、中国語と中国文化に関する理解を深めていく。2回一課のペースで授業を進めていく。</p>				
授業計画	① 前期の復習 ② 第7課 飲食文化 ③ 第7課 練習 ④ 第8課 薬膳 ⑤ 第8課 練習 ⑥ 第9課 体育健身运动 ⑦ 第9課 練習 ⑧ 第10課 動物	⑨ 第10課 練習 ⑩ 第11課 旗袍 ⑪ 第11課 練習 ⑫ 第12課 大学 ⑬ 第12課 練習 ⑭ 中国語の歌 ⑮ 復習 ⑯ 定期試験			
評価方法	出席状況20%、小テスト40%、試験40%による総合評価				
履修条件	なし				
教科書	前期使った教科書の後半を引き続き使用する				
参考書	授業の中で随時紹介する				

国際文化学科

科目名	応用中国語Ⅰ	配当年次 単位数	2年前期/演習 1単位(選択)	担当者	尹 勝男
授業概要	中国語で自分が言いたいことを言ってみたい、中国語検定を受けてみたい学生を対象に、中国語検定試験の過去問題を資料として使用する。解けなかった問題をわかりやすく丁寧に説明し、中国語の基礎力、応用力の向上を図る。中国語ミニ発表機会を2回用意する。				
授業計画	① ガイダンス ②～⑥ 中検対策4級文法と練習問題 ⑦～⑧ 4級リスニング問題 ⑨～⑩ 4級筆記問題 ⑪ 4級の復習			⑫～⑬ 中検対策3級文法と練習問題 ⑭～⑮ 中国語ミニ発表 ⑯ 定期試験	
評価方法	出席状況30%、小テスト30%、試験40%による総合評価				
履修条件	なし				
教科書	プリントを配布する				
参考書	授業の中で随時紹介する				

国際文化学科

科目名	応用中国語Ⅱ	配当年次 単位数	2年後期/演習 1単位(選択)	担当者	尹 勝男
授業概要	中国語で自分が言いたいことを言ってみたい、中国語検定を受けてみたい学生を対象に、中国語検定試験の過去問題を資料として使用する。解けなかった問題をわかりやすく丁寧に説明し、中国語の基礎力、応用力の向上を図る。前期と同じように最後に中国語ミニ発表機会を用意する。				
授業計画	① 前期の復習 ②～⑧ 中検対策3級文法と練習問題			⑨～⑬ 3級リスニング問題と筆記問題 ⑭～⑮ 中国語ミニ発表 ⑯ 定期試験	
評価方法	出席状況30%、小テスト30%、試験40%による総合評価				
履修条件	なし				
教科書	プリントを配布する				
参考書	授業の中で随時紹介する				

国際文化学科

科目名	初級中国語会話Ⅰ	配当年次 単位数	1年前期／演習 1単位（選択）	担当者	尹 勝男
授業概要	<p>本授業は、正しい発音で簡単な日常会話ができることを目標とする。授業方法は講義を中心としながら、個人指導も同時に行う。具体的に、文法、本文などの解釈の後、個別に発音のチェック及び練習問題などを通じて授業を行う。1回1課のペースで進めていく予定である。</p>				
授業計画	① ガイダンス ② 母音、声調 ③ 子音 ④ ピンインの復習 ⑤ 第1課 私は学生。 ⑥ 第2課 今天天气真热! ⑦ 第3課 今天星期几? ⑧ 第4課 你现在在哪儿?	⑨ 第5課 午饭你想吃什么? ⑩ 第6課 你昨天买了什么? ⑪ 第7課 你今年多大? ⑫ 第8課 你家离学校远不远? ⑬ 第9課 你在干什么呢? ⑭ 第10課 这是谁做的蛋糕? ⑮ 復習 ⑯ 定期試験			
評価方法	出席状況20%、小テスト40%、試験40%による総合評価				
履修条件	なし				
教科書	『1・2・3中国語』郁文堂出版社。著者：王武雲、朱藝、林愛華、李徳林（2,500円＋税）				
参考書	授業の中で随時紹介する				

国際文化学科

科目名	初級中国語会話Ⅱ	配当年次 単位数	1年後期／演習 1単位（選択）	担当者	尹 勝男
授業概要	<p>本授業は、正しい発音で簡単な日常会話ができることを目標とする。授業方法は講義を中心としながら、個人指導も同時に行う。具体的に、文法、本文などの解釈の後、個別に発音のチェック及び練習問題などを通じて授業を行う。1回1課のペースで進めていく予定である。</p>				
授業計画	① 前期の復習 ② 第10課 这是谁做的蛋糕? ③ 第11課 你会打网球吗? ④ 第12課 快要放暑假了。 ⑤ 第13課 尝尝我包的饺子吧。 ⑥ 第14課 他们今天来干什么? ⑦ 第15課 哪位老师教你们英语? ⑧ 復習	⑨ 第16課 周末我们去旅游吧。 ⑩ 第17課 天气越来越暖和了。 ⑪ 第18課 昨天被雨淋了，头疼。 ⑫ 第19課 我一看小说就困。 ⑬ 第20課 那我再说一遍吧。 ⑭ 第21課 如果周末是晴天，去爬山吧。 ⑮ 復習 ⑯ 定期試験			
評価方法	出席状況20%、小テスト40%、試験40%による総合評価				
履修条件	なし				
教科書	前期使った教科書の後半を引き続き使用する				
参考書	授業の中で随時紹介する				

国際文化学科

<b>科目名</b>	<b>中級中国語会話Ⅰ</b>	<b>配当年次</b>	2年前期／演習	<b>担当者</b>	<b>王 武雲</b>
		<b>単位数</b>	1単位 (選択)		<b>尹 勝男</b>
<b>授業概要</b>	<p>この授業は、1年生で勉強した中国語の発音、基礎文法知識を高めて、簡単な会話とヒヤリング能力を身につけることを目指す。</p> <p>テキストに沿って発音練習、文法の説明、練習問題の解答を行う。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習をする。本文会話の暗記や翻訳練習も毎回行うので、覚悟を持って臨んでほしい。また、毎回、前回の授業を復習する意味で、授業の最初に小テストを行う。教科書の内容以外に中国語検定試験の過去問題を使って、練習する予定である。中国の歌も挑戦してもらう。</p>				
<b>授業計画</b>	① 発音の復習 (第1課～第3課) ② 第4課 你贵姓? ③ 文法と練習 ④ 第5課 你去哪儿? ⑤ 文法と練習 ⑥ 第6課 我想喝普洱茶。 ⑦ 文法と練習 ⑧ 第7課 你喜欢什么?	⑨ 文法と練習 ⑩ 第8課 中国队太厉害了! ⑪ 文法と練習 ⑫ 中国語検定試験の問題 ⑬ 中国語の歌 ⑭ 復習 ⑮ 中国語の発表会 ⑯ 定期試験			
<b>評価方法</b>	出席状況20%、小テスト40%、試験40%による総合評価				
<b>履修条件</b>	なし				
<b>教科書</b>	『新・跟我学漢語』あるむ出版社。著者：朱新建・魯雪な・李智基 (2, 500円+税)				
<b>参考書</b>	授業の中で随時紹介する				

国際文化学科

<b>科目名</b>	<b>中級中国語会話Ⅱ</b>	<b>配当年次</b>	2年後期／演習	<b>担当者</b>	<b>王 武雲</b>
		<b>単位数</b>	1単位 (選択)		
<b>授業概要</b>	<p>後期の授業は、基本的に文法や文型を理解したうえで、ヒアリングと話す能力に重きを置いて進めていく。中国語で簡単なコミュニケーションができるようになることを目指す。</p> <p>前期と同じように、毎回、前回の授業で学習した会話の暗記テストをする。使用する教科書には中国の文化や中国人の習慣などについて書いた内容があり、中国語を勉強しながら、中国の文化や社会にも触れて行く。また中国の映画を鑑賞する予定である。</p>				
<b>授業計画</b>	① 前期の復習 ② 中国方言多, 民族也多。 ③ 文法と練習(1) ④ 坐地铁去吧 ⑤ 文法と練習(2) ⑥ 用手机上网查查 ⑦ 文法と練習(3) ⑧ 我也想去锻炼锻炼。	⑨ 文法と練習(4) ⑩ 你弹的古筝太好听了! ⑪ 学习中文写作 ⑫ 文法と練習(5) ⑬ 讲故事的人 ⑭ 復習 ⑮ 中国語の発表会 ⑯ 定期試験			
<b>評価方法</b>	出席状況20%、小テスト40%、試験40%による総合評価				
<b>履修条件</b>	なし				
<b>教科書</b>	前期使った教科書の後半を引き続き使用する				
<b>参考書</b>	授業の中で随時紹介する				



国際文化学科

科目名	韓国語Ⅰ	配当年次 単位数	1年前期／演習 1単位(選択)	担当者	金基淑
授業概要	韓国語の入門や初級レベルの書き、読みを中心とする基礎的な能力を身につける。				
授業計画	① ガイダンス ② 基本母音の字母 ③ 合成母音字母 ④ 基本子音字母 ⑤ 平音・激音・濃音の発音 ⑥ 반침 (パッチム) ⑦ 発音のルールと簡単な挨拶(1) ⑧ 発音のルールと簡単な挨拶(2)	⑨ 発音のルールと簡単な挨拶(3) ⑩ 発音のルールと簡単な挨拶(4) ⑪ 発音のルールと簡単な挨拶(5) ⑫ 発音のルールと簡単な挨拶(6) ⑬ 発音のルールと簡単な挨拶(7) ⑭ 発音のルールと簡単な挨拶(8) ⑮ まとめ ⑯ 定期試験			
評価方法	出席状況・授業態度・小テスト・提出物など5%、定期試験95%				
履修条件	特になし				
教科書	『最新チャレンジ!韓国語』 白水社 (著) 金順玉・阪堂千津子				
参考書					

国際文化学科

科目名	韓国語Ⅱ	配当年次 単位数	1年後期／演習 1単位(選択)	担当者	金基淑
授業概要	韓国語の簡単なスキットを通して文法や表現を勉強する。また、韓国の文化や習慣なども学びながら、簡単な会話ができるようにする。				
授業計画	① 第5課 自己紹介(1) ② 自己紹介(2) ③ かしこまった (です・ます) 体の作り方(1) ④ かしこまった (です・ます) 体の作り方(2) ⑤ 第5課の復習 ⑥ 第6課 位置を表すことば ⑦ 第6課の復習 ⑧ 第7課 指示代名詞	⑨ 助詞のまとめ ⑩ 第7課の復習 ⑪ 第8課打ち解けた (です・ます) 体の作り方(1) ⑫ 打ち解けた (です・ます) 体の作り方(2) ⑬ 数詞 (漢数詞) ⑭ 数詞 (固有数詞) ⑮ 第8課の復習・まとめ ⑯ 定期試験			
評価方法	出席状況・授業態度・小テスト・提出物など5%、定期試験95%				
履修条件	特になし				
教科書	『最新チャレンジ!韓国語』 白水社 (著) 金順玉・阪堂千津子				
参考書					

国際文化学科

科目名	韓国語Ⅲ	配当年次 単位数	2年前期/演習 1単位(選択)	担当者	川上 新二		
授業概要	<p>韓国語Ⅰ、Ⅱの学習の上に、韓国語の基本的な文法事項を習得し、韓国語による基本的な表現ができるようになることを目標とする。一人ずつ韓国語で発話しながら授業を進めるので、受身の授業ではなく、積極的に授業に出席することが肝要である。5回目と10回目の授業、それに定期試験期間中にそれぞれテストを行い(合計3回、各30点満点、合計90点満点)、3回のテストの合計点で成績を評価するので、予習復習を怠らないこと。テストでは、授業で学習した韓国語の基本的な文法事項を習得しているかを問う。</p>						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>① ~です、~ではありません。</li> <li>② あります、います、ありません、いません。</li> <li>③ ~します、~しますか。</li> <li>④ ~ですか、何ですか。</li> <li>⑤ <u>第1回テスト</u></li> <li>⑥ いかがですか。</li> <li>⑦ ~なさいます、~してください、~しましょう。</li> <li>⑧ ~を~します、どこに行きますか。</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑨ 時間</li> <li>⑩ <u>第2回テスト</u></li> <li>⑪ 何が好きですか。</li> <li>⑫ 数</li> <li>⑬ ~しましょうか、~でしょう。</li> <li>⑭ 過去形</li> <li>⑮ 不規則変化(1)</li> <li>⑯ <u>第3回テスト</u></li> </ul> </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> <li>① ~です、~ではありません。</li> <li>② あります、います、ありません、いません。</li> <li>③ ~します、~しますか。</li> <li>④ ~ですか、何ですか。</li> <li>⑤ <u>第1回テスト</u></li> <li>⑥ いかがですか。</li> <li>⑦ ~なさいます、~してください、~しましょう。</li> <li>⑧ ~を~します、どこに行きますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑨ 時間</li> <li>⑩ <u>第2回テスト</u></li> <li>⑪ 何が好きですか。</li> <li>⑫ 数</li> <li>⑬ ~しましょうか、~でしょう。</li> <li>⑭ 過去形</li> <li>⑮ 不規則変化(1)</li> <li>⑯ <u>第3回テスト</u></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>① ~です、~ではありません。</li> <li>② あります、います、ありません、いません。</li> <li>③ ~します、~しますか。</li> <li>④ ~ですか、何ですか。</li> <li>⑤ <u>第1回テスト</u></li> <li>⑥ いかがですか。</li> <li>⑦ ~なさいます、~してください、~しましょう。</li> <li>⑧ ~を~します、どこに行きますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑨ 時間</li> <li>⑩ <u>第2回テスト</u></li> <li>⑪ 何が好きですか。</li> <li>⑫ 数</li> <li>⑬ ~しましょうか、~でしょう。</li> <li>⑭ 過去形</li> <li>⑮ 不規則変化(1)</li> <li>⑯ <u>第3回テスト</u></li> </ul>						
評価方法	3回のテスト(各30点満点、合計90点満点)、授業態度10点満点						
履修条件	韓国語Ⅱまで履修した者、もしくはそれと同等の韓国語能力をもつ者						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	韓国語Ⅰ、Ⅱで使用した教科書						

国際文化学科

科目名	韓国語Ⅳ	配当年次 単位数	2年後期/演習 1単位(選択)	担当者	川上 新二		
授業概要	<p>韓国語Ⅲの学習の上に、韓国語の基本的な文法事項のさらなる習得と、韓国語による基本的な表現がさらに行えるようになることを目標とする。一人ずつ韓国語で発話しながら授業を進めるので、受身の授業ではなく、積極的に授業に出席することが肝要である。5回目と10回目、それに定期試験期間中にそれぞれテストを行い(合計3回、各30点満点、合計90点満点)、3回のテストの合計点で成績を評価するので、予習復習を怠らないこと。テストでは、授業で学んだ韓国語の基本的な文法事項を習得しているかを問う。</p>						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>① いくらですか。</li> <li>② 何時ですか。</li> <li>③ 数詞</li> <li>④ 文の接続(1)</li> <li>⑤ <u>第1回テスト</u></li> <li>⑥ 文の接続(2)</li> <li>⑦ ~から~まで</li> <li>⑧ ~だけれども、~しないでください。</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑨ ~で</li> <li>⑩ <u>第2回テスト</u></li> <li>⑪ 不規則変化(2)</li> <li>⑫ 理由</li> <li>⑬ 修飾(1)</li> <li>⑭ 修飾(2)</li> <li>⑮ 不規則変化(3)</li> <li>⑯ <u>第3回テスト</u></li> </ul> </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> <li>① いくらですか。</li> <li>② 何時ですか。</li> <li>③ 数詞</li> <li>④ 文の接続(1)</li> <li>⑤ <u>第1回テスト</u></li> <li>⑥ 文の接続(2)</li> <li>⑦ ~から~まで</li> <li>⑧ ~だけれども、~しないでください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑨ ~で</li> <li>⑩ <u>第2回テスト</u></li> <li>⑪ 不規則変化(2)</li> <li>⑫ 理由</li> <li>⑬ 修飾(1)</li> <li>⑭ 修飾(2)</li> <li>⑮ 不規則変化(3)</li> <li>⑯ <u>第3回テスト</u></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>① いくらですか。</li> <li>② 何時ですか。</li> <li>③ 数詞</li> <li>④ 文の接続(1)</li> <li>⑤ <u>第1回テスト</u></li> <li>⑥ 文の接続(2)</li> <li>⑦ ~から~まで</li> <li>⑧ ~だけれども、~しないでください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑨ ~で</li> <li>⑩ <u>第2回テスト</u></li> <li>⑪ 不規則変化(2)</li> <li>⑫ 理由</li> <li>⑬ 修飾(1)</li> <li>⑭ 修飾(2)</li> <li>⑮ 不規則変化(3)</li> <li>⑯ <u>第3回テスト</u></li> </ul>						
評価方法	3回のテスト(各30点満点、合計90点満点)、授業態度10点満点						
履修条件	韓国語Ⅲの履修者、もしくはそれと同等の韓国語能力をもつ者						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	韓国語Ⅰ、Ⅱで使用した教科書						

国際文化学科

科目名	情報処理概論	配当年次 単位数	1年前期/講義 2単位 (必修)	担当者	松浦 康之
授業概要	現代社会において、コンピュータや情報通信は欠かせないものとなっている。本講義では、基本的なコンピュータの仕組みやシステム、ネットワークについて学習する。また、ネット社会における情報の扱い方や、セキュリティなどの脅威とその対策を理解することで、コンピュータ・インターネットにかかわる概念的な常識を身につける。				
授業計画	① ガイダンス ② ハードウェア ③ ソフトウェア ④ コンピュータで扱うデータ ⑤ データベース ⑥ ネットワーク(1) (LAN、WAN) ⑦ ネットワーク(2) (インターネット、IP、HI) ⑧ まとめ (前半)		⑨ セキュリティ ⑩ 情報リテラシー ⑪ 企業活動とITの利用 ⑫ 仕事とコンピュータ ⑬ VR、AR、MR ⑭ ビッグデータとIoT ⑮ まとめ (後半)		
評価方法	出席状況・授業態度10%、授業内課題30%、授業内試験60%				
履修条件	特になし。				
教科書	ITパスポート教科書/インプレスブックス				
参考書	特になし。				

国際文化学科

科目名	情報処理演習 I (表現)	配当年次 単位数	1年後期/演習 1単位 (必修)	担当者	木村 充位
授業概要	表作成、図作成、オブジェクトの埋め込みなどワープロソフト (Word) を使った実用的文書作成の方法を学ぶ。さらに、ホームページ作成による情報発信の仕方も学ぶ。さらに、プレゼンテーションソフト (Power Point) を使って、効果的な発表方法を学ぶ。また、文部科学省後援の日本情報処理検定協会が主催するワープロ検定1級、ホームページ作成2級の資格取得を意識した演習も行う。				
授業計画	①～⑪ Word の基本操作 レイアウト、表作成、図作成、他のアプリケーションで作ったオブジェクトの埋め込み、長文作成		⑫ ホームページ作成の基本 (タグ入力) ⑬、⑭ Home Page Builder による ホームページの作成 (文字、記号の入力、壁紙の挿入、画像の挿入、 表の作成、ハイパーリンク、スタイルシートの作成) ⑮ PowerPoint の基本操作 スライドの作成とスライドショーの実行 ⑯ 定期試験		
評価方法	出席状況・授業態度・レポート50%、定期試験50%				
履修条件	なし				
教科書	特に指定しない				
参考書	特に指定しない				

国際文化学科

科目名	<b>情報処理演習 I (関数)</b>	配当年次 単位数	1年後期/演習 1単位 (必修)	担当者	<b>松浦 康之</b>
授業概要	関数機能、データベース機能、グラフ機能など、表計算ソフト (Excel) の実践的活用法を学ぶ。情報処理技能検定 (表計算) 2級~準1級レベルの到達度を目指す。				
授業計画	① Excelの基礎 ② 表の作成 ③ 関数(1) 絶対参照と相対参照 ④ 関数(2) 文字列操作関数、統計関数 ⑤ 書式 ⑥ 基本的なグラフ ⑦ 複合グラフ ⑧ 関数(3) 数学/三角関数	⑨ 関数(4) 論理関数1 ⑩ 関数(5) 論理関数2 ⑪ オートフィルタ ⑫ データベース機能 ⑬ テキストファイルの利用 ⑭ ピポットテーブル ⑮ まとめ			
評価方法	出席状況・授業態度10%、授業内課題10%、授業内試験80%				
履修条件	特になし。				
教科書	完全マスター Excel2016/noa 出版				
参考書	特になし。				

国際文化学科

科目名	<b>情報処理演習 II (応用)</b>	配当年次 単位数	2年前期/演習 1単位 (選択)	担当者	<b>木村 充位</b>
授業概要	1年後期の情報処理演習 I で学習したことを基礎にした実用的な文書作成やホームページ作成について学ぶ。また、財務関数など表計算ソフト (Excel) を使った事務の効率化について知る。特に文部科学省後援の日本情報処理検定協会が主催する文書デザイン1級・2級レベル、ホームページ作成1・2級レベルの資格取得を意識し、基礎的な設定から高度な設定までを順を追って解説する。				
授業計画	①~⑤ Word の実践的な活用 図形の加工、画像の加工、表の加工など  ⑥~⑬ ホームページの作成 スタイルシートの作成、 フォームの作成、イメージマップの作成、 JavaScript の挿入	⑭、⑮ Excel の実践的な活用 財務関数の利用  ⑯ 定期試験			
評価方法	出席状況・授業態度・レポート50%、定期試験50%				
履修条件	なし				
教科書	特に指定しない				
参考書	特に指定しない				

## 国際文化学科

科目名	<b>情報処理演習Ⅲ（発展）</b>	配当年次 単位数	2年後期／演習 1単位（選択）	担当者	<b>松浦 康之</b>
授業概要	本演習では、データベースソフト（Access）を使って、システム構築の初歩を学ぶ。また、プログラミング（VBA、Visual Basic for Application）の初歩を学んで、作業の効率化について学ぶ。情報処理技能検定（データベース）2級レベルの到達度を目指す。				
授業計画	① ガイダンス ② データベース、Accessの概要 ③ テーブルの作成 ④ データのインポート ⑤ フォームの概要とフォームの作成 ⑥ クリエの概要と選択クエリ ⑦ レポートの概要とレポートの作成 ⑧ レポートのデザイン		⑨ リレーションシップの設定 ⑩ 集計クエリ ⑪ クロス集計クエリ ⑫ パラメータクエリ ⑬ メイン／サブフォームの作成 ⑭ マクロの作成 ⑮ まとめ		
評価方法	出席状況・授業態度10%、授業内課題10%、授業内試験80%				
履修条件	特になし。				
教科書	できる Access 2016／インプレスブックス				
参考書	特になし。				

## 国際文化学科

科目名	<b>日本語表現法Ⅰ</b>	配当年次 単位数	1年前期／演習 1単位（必修）	担当者	<b>村中 菜摘</b>
授業概要	ことばの4機能である「読む」「書く」「話す」「聞く」のうち、本講義では「書く」ことを中心に据え、文章表現を磨くことを目的とする。日本語の特質、書きことばの特質を客観的に認識し、実際に文章を書いてみることで、各場面にふさわしい表現を身につける。実際にさまざまな表現やいろいろな種類の文章に触れ、ことばの選択に気を配りながら作文能力を向上させる。				
授業計画	① はじめに、日本語の特質 ② 書きことばの特質—話しことばとの比較から ③ 書きことばの特質—語句の選択、自然な語順 ④ 表記についての基礎知識 ⑤ 待遇表現、敬語の種類(1) ⑥ 敬語の種類(2)、文章を書く前に ⑦ 文章の種類と型、案内文の実例研究 ⑧ 案内文を書く(1)		⑨ 案内文を書く(2) ⑩ 手紙文の構造研究、手紙文を書く(1) ⑪ 手紙文を書く(2) ⑫ 要点を捉える(1) キーワードを見つける ⑬ 要点を捉える(2) キーセンテンスを見つける ⑭ 報告文（レポート）の条件、タイトルを決める ⑮ 報告文の構造、報告文のまとめ方 ⑯ 試験		
評価方法	出席状況・授業態度・課題50%、定期試験50%				
履修条件	特になし				
教科書	沖森卓也・半沢幹一『日本語表現法付ワークブック改訂版』（三省堂）				
参考書	必要に応じて別途プリントを配布する				

国際文化学科

科目名	日本語表現法Ⅱ	配当年次 単位数	1年後期/演習 1単位(選択)	担当者	村中 菜摘
授業概要	本講義では「話す」・「聞く」こと、および、社会人として不可欠な敬語を実践的に身に付ける。敬語は実際に使用しなければ上達しないため、積極的に用いる機会を設けることで、慣れと運用能力の上達を図る。加えて、緊張する場に身を置いた際にも、伝えたいことを明確に伝えられる話の構成技術を修得する。人前で話すことが苦手な方も自信が付き、積極的になれるよう指導する。				
授業計画	① はじめに、コミュニケーションセンスの確認 ② コミュニケーションにおけることばの重要性 ③ 挨拶と気配りワード ④ グループ発表—初対面の相手との話題作り ⑤ 発音・発声、語尾・話し癖の意識化 ⑥ 発表—簡潔・明快に話す ⑦ 敬語の必要性、敬語の種類 ⑧ 敬語のロールプレイ(1)導入、準備		⑨ グループ発表—敬語のロールプレイ(2)、復習 ⑩ 効果的な話し方(1)結論から話す方法、他 ⑪ 効果的な話し方(2)優先順位を付ける方法、他 ⑫ 話の構成技術を身に付ける—主題・話題・主張 ⑬ 発表—主題・話題・主張の方法でスピーチする ⑭ 効果的な話の聞き方(1) ⑮ 効果的な話の聞き方(2) ⑯ 試験		
評価方法	出席状況・授業態度・発表に対する積極的な参加50%、定期試験50%				
履修条件	特になし				
教科書	『コミュニケーション技法』(ウィネット)				
参考書	必要に応じて別途資料を配布する				

国際文化学科

科目名	現代国際事情	配当年次 単位数	1年後期/講義 2単位(選択)	担当者	荒木 隆人
授業概要	最近のテレビや新聞のニュースを賑わせた国際問題として、シリア内戦、スコットランド独立住民投票、カタール独立住民投票などがある。これらは、暴力を伴うものも、伴わないものもあったが、いずれも異なる文化、言語をもつ集団同士の紛争、いわゆる民族紛争問題である。本講義では、冷戦以後の主要な国際問題となっている地域紛争、民族問題を事例別に歴史的背景を検討した上で、その解決の可能性を探ってみたい。				
授業計画	① イントロダクション ② 民族問題とは ③ 中東民族問題(1) (パレスチナ問題) ④ 中東民族問題(2) (イラク問題) ⑤ 中東民族問題(3) (シリア内戦) ⑥ アフリカ民族問題(1) (スーダン) ⑦ アフリカ民族問題(2) (ルワンダ) ⑧ アジア民族問題 (スリランカ)		⑨ 旧ユーゴスラヴィア民族問題 ⑩ ベルギー民族問題 ⑪ カナダ・ケベック州民族問題(1) ⑫ カナダ・ケベック州民族問題(2) ⑬ スペイン民族問題 ⑭ イギリス民族問題 ⑮ 民族問題への処方箋 ⑯ 定期試験		
評価方法	出席状況・授業態度20%、定期試験80%				
履修条件	なし。				
教科書	特に指定しない。				
参考書	『民族紛争』(岩波新書)、『マルチナショナリズム』(彩流社)、『マルチナショナル連邦制』(彩流社)				

## 国際文化学科

科目名	<b>国際経済論</b>	配当年次 単位数	1年前期／講義 2単位(選択)	担当者	<b>松葉 敬文</b>
授業概要	地球規模で経済が繋がるようになり、グローバリゼーションという言葉が自然に聞かれるようになりました。また自由貿易協定(FTA)や環太平洋パートナーシップ協定(TPP)など、国際取引をさらに促進させようとする協定も活発に議論されています。しかし、イギリスのEU離脱(ブレグジット)に代表されるように、近年では急速な自由化に懸念を抱く考え方も出てきました。そして依然として人々が享受する豊かさは国際的に大きな偏りがあります。本講義では、様々な国について考えながら、国際的な経済の繋がりと豊かさについて考えていきましょう。				
授業計画	① はじめにーオリエンテーション ② 貿易利益(1)ー国際分業 ③ 貿易利益(2)ー比較優位の考え方 ④ 私達の生活水準ー先進国と絶対的貧困 ⑤ 豊かさの捉え方(1)ーGDPの基礎概念 ⑥ 豊かさの捉え方(2)ーHDIとHAI ⑦ 経済成長と女性の力 ⑧ 経済的脆弱性ーEVI	⑨ 様々な途上国(1)ー後発開発途上国 ⑩ 様々な途上国(2)ー小島嶼開発途上国 ⑪ 様々な途上国(3)ー内陸開発途上国 ⑫ 貿易と産業構造 ⑬ 保護貿易の功罪 ⑭ FTA・EPAとグローバリゼーション ⑮ グローバリゼーションの光と影 ⑯ 定期試験ー記述式			
評価方法	定期試験75%、出席状況等(授業態度、レポート、小テスト、提出物などを含む)25%				
履修条件	必須ではないが1年次「生活と経済」を併行履修していることが望ましい。				
教科書	なし				
参考書	「不公正貿易報告書」 経済産業省通商政策局、「国際経済学の基礎100項目」 創成社 著:多和田真 他				

## 国際文化学科

科目名	<b>人間関係論</b>	配当年次 単位数	2年前期／講義 2単位(選択)	担当者	<b>宮本 邦雄</b>
授業概要	人間は社会の中に生きる存在である。多様な人間行動は、いかに社会と関わって形成され、また影響されるのか、更にはいかに社会を形成していくのだろうか。家族、地域、学校、職場、公的空間における人間行動を、主に心理学的観点から分析・解説する。夫婦関係や親子関係、地域での子育てや高齢者の見守り、教師と児童・生徒関係、学級集団、友人関係、上司ー部下関係やリーダーシップ、生涯学習と人間関係、集合行動・群衆、マスメディアと人間関係、異文化間の人間関係、インターネットと人間関係を取り上げる。この講義を通し、人間行動の多様性や、人間と社会の関わりを理解する。				
授業計画	① オリエンテーション、人間行動と社会の枠組み ② 結婚と夫婦関係 ③ 親子関係、子育てとアタッチメント ④ 家族関係のダイナミクス ⑤ 地域の間人間関係、子育て、高齢者の見守り ⑥ 学校の間人間関係(1)、教師と児童・生徒 ⑦ 学校の間人間関係(2)、学級集団と友人関係 ⑧ 職場の間人間関係(1)、上司と部下、リーダーシップ	⑨ 職場の間人間関係(2)、職業集団 ⑩ 生涯学習と人間関係 ⑪ ボランティア活動と人間関係 ⑫ 群集と集合行動 ⑬ マスメディアと人間関係 ⑭ 異文化間の人間行動 ⑮ インターネットと人間関係 ⑯ 定期試験			
評価方法	試験の評価90%、小レポート10%				
履修条件	特に無し				
教科書	資料を配布する				
参考書	吉森護「人間関係の心理学ハンドブック」1991 北大路書房、吉田俊和他「対人関係の社会心理学」2012ナカニシヤ出版				

国際文化学科

科目名	観光論	配当年次 単位数	2年前期/講義 2単位(選択)	担当者	高松 正明
授業概要	<p>「21世紀は、観光の時代である」と言われます。人間が人間らしく生き、人生を充実させていく上で、観光は必要不可欠であります。観光にかかわる基本的な事柄をふまえ、観光ビジネスの特性と観光ビジネス分野で起きていること、そして今後の展望について学習するとともに、観光にかかわる人々、観光によって得ることができるもの、観光を充実させる上で必要な事柄についての理解を深めます。講義では、観光に密接不可分に結びついている、歴史・文学・美術・音楽・歳時を織り交ぜながら、観光の楽しさを学んでいきます。</p>				
授業計画	① オリエンテーション：観光を学ぶ意義 ② 観光に関わる言葉 ③ 観光のしくみ ④ 観光資源と観光対象 ⑤ 観光資源：桜の歴史 ⑥ 観光産業の構成と特徴 ⑦ 様々な観光ビジネス：旅行業 ⑧ 様々な観光ビジネス：宿泊産業	⑨ 様々な観光ビジネス：交通運輸業 ⑩ 様々な観光ビジネス：テーマパーク、観賞施設等 ⑪ 観光と情報 ⑫ 観光政策と観光行政 ⑬ 観光のマーケティング ⑭ 旅の歴史とこれからの旅行 ⑮ 観光と国際経済・社会・文化 ⑯ 定期試験			
評価方法	出席状況・授業態度20%、定期試験80%				
履修条件					
教科書	JTB 総合研究所 『観光学基礎 観光に関する14章(第7版)』				
参考書					

国際文化学科

科目名	ホテル論	配当年次 単位数	1年後期/講義 2単位(選択)	担当者	豊田 哲雄
授業概要	<p>時代の変化がホテルを変える、またホテルとして変えてはならない普遍的ホテルサービスがある。現代から未来を予測し、今行われているホテルの基本・実務サービスの現状と対策をお伝えしつつ、社会におけるホテルの価値観を講義の中で学生に考えていただけるものにしてゆきたい。</p>				
授業計画	① はじめに ② ホテルの歴史 ③ ホテルの特性と組織 ④ ホテルマンシップ ⑤ 宿泊編(1) (フロント) ⑥ 宿泊編(2) (客室) ⑦ 料飲編(1) (宴会) ⑧ 料飲編(2) (レストラン)	⑨ プライダル編 ⑩ セールスプロモーションとマーケティング(1) ⑪ セールスプロモーションとマーケティング(2) ⑫ 予約業務編 ⑬ 企画と各セクションの連携 ⑭ 管理部門の業務と機能 ⑮ 地域とホテル、その将来像 ⑯ レポート提出			
評価方法	出席率(最優先)+授業態度+レポートの評価 → 計数化して評価				
履修条件	特になし				
教科書	なし				
参考書	なし				



## 国際文化学科

科目名	専門演習	配当年次 単位数	2年前期／演習 2単位 (必修)	担当者	各担当教員
授業概要	<p>専門演習に関連したテーマについて、専任教員の指導のもと研究に関する知識を身につける。学生自ら文献調査を行い、問題を発見し、分析・解析していく能力を養う。また、口頭発表の仕方、論文・レポートの書き方を学ぶ。ただし、情報系の専門演習では、論文・レポートは書かず、プログラミングについて学ぶ。さらに、卒業研究に向けての動機付けを行う。</p>				
授業計画	<p>1年後期に実施されるゼミ説明会を参考に、自分の研究分野と指導教官を決める。ゼミ配属が決定した後、各担当教官の指導に従い、テーマを設定して、調査・研究を行い、その成果を口頭発表し、レポートにまとめていく。授業のなかで卒業研究のテーマを絞り込んでいく。</p>				
評価方法	初回の授業で各担当教員が提示する。				
履修条件	1年次の合計取得単位数が20単位以上であること。				
教科書	各担当教員が授業のなかで提示する。				
参考書	各担当教員が授業のなかで提示する。				

## 国際文化学科

科目名	卒業研究	配当年次 単位数	2年後期／演習 2単位 (必修)	担当者	各担当教員
授業概要	<p>学生自ら問題意識を持って、自分のテーマを研究し、卒業論文または卒業作品を作成する。また、各担当教官のもとで卒業論文発表会または卒業作品発表会を開催し、人前で研究の成果を発表する。</p>				
授業計画	<p>各担当教官の指導のもとに、研究計画を立て、これに基づいて調査研究を進めていく。最後にその成果を卒業論文または卒業作品としてまとめる。</p> <p>各担当教官のもとで卒業論文または卒業作品発表会を開催し、人前で研究の成果を発表する。</p>				
評価方法	初回の授業で各担当教員が提示する。				
履修条件	1年次の合計取得単位数が20単位以上であること。				
教科書	各担当教員が授業のなかで提示する。				
参考書	各担当教員が授業のなかで提示する。				